

## (c) 【海獣繁殖状況調査】



## (c) 【海獣繁殖状況調査】

### 1) 目的

北海道沿岸には 5 種のアザラシ類やトド、キタオットセイにくわえ近年ではラッコと多様な海棲の食肉目哺乳類が生息する。アザラシ類のうち 4 種は氷上繁殖型で大部分が流氷接岸期に来遊するものであるが、陸上で繁殖するゼニガタアザラシは一年を通じて北海道東部沿岸に生息する。同種は 1970 年代には乱獲や生息地の破壊によって 400 頭程度にまで減少したが、現在では 1000 頭前後まで回復してきており、それに伴って漁業被害や漁網での混獲といった人間との軋轢が深刻化している地域もある。

浜中町内にもゼニガタアザラシが上陸する岩礁（以下、上陸場とする）が存在するが、そのうち数ヶ所は 1980 年代までに過度の狩猟や漁業の稠密化によって崩壊・消滅した。その中で初田半は、1990 年代後半には非繁殖期の上陸場として再利用されるようになってきたことが明らかになっている。浜中湾北部の上陸場では帯広畜産大学ゼニガタアザラシ研究グループをはじめとする年 2 回のセンサス（個体数調査）で、長期の個体数動向が比較的把握されている。ただし年 2 回の調査であり、繁殖期を通じたモニタリングは行われていない。また、沖合にあるホカケ岩や過去に消滅したケンボッキ島の現状については近年調べられていなかったが、ホカケ岩は当基金の調査から浜中湾一帯では最も重要な繁殖場であることが明らかになりつつあり、2014 年度の本事業ではおよそ 30 年ぶりにケンボッキ島での繁殖が確認された。

そこで、浜中湾周辺の数ヶ所の上陸場において、繁殖期から換毛期のゼニガタアザラシ生息数、特に今年生まれた新生仔の数を明らかにし、現状を評価することを目的に調査を行った。ゼニガタアザラシは体表の斑紋が個体ごとに異なり、一生変化しないため個体識別が可能であり、各上陸場での写真撮影による個体データを蓄積することで繁殖状況や寿命、上陸場・地域間の移動等の生活史を明らかにし、将来的な保護・管理に役立てることも合わせて目的とした。

### 2) 調査方法

各上陸場の概況や調査手法は下記に個別に記すが、浜中湾周辺の 4 ヶ所のゼニガタアザラシ上陸場で 5～7 月に調査を実施し、原則として干潮時を中心に陸上または船舶からアザラシを数えると同時に 400mm 望遠レンズを装着したデジタル一眼レフカメラで個体識別用写真を撮影した。また、ゼニガタアザラシ以外の海獣類を確認した時は種や数を記録した。調査地ごとの概況や手法は次の通りである。

- ①**浜中湾北部**： 浜中湾北部に点在する約 20 の岩礁にアザラシが上陸し、陸上からアプローチ可能である。5 月 23 日に干潮を挟んだ数時間、上陸場を見下ろす陸上から双眼鏡（10 倍）と望遠鏡（25 倍）を用いたカウントを行った。
- ②**初田牛**： 根室市との境界近くに位置する岩礁で、1970 年代には 20～30 頭の生息する、小規模ながら安定した上陸場だったが、80 年代以降崩壊した。近年は秋から早春に少数の上陸が確認されるため、5 月 23 日に双眼鏡と望遠鏡を用いて陸上から調査した。
- ③**ホカケ岩**： 霧多布岬の沖合約 3km にある岩礁帯で、陸上からの観察は距離と角度により難がある。5 月 24 日に小型のコンブ漁船を備船して、干潮時に 30 分ほどかけて岩礁を一巡し、カウントと 400mm 望遠レンズを装着した一眼レフデジタルカメラで写真撮影を行ったほか 7 月 1、26 日の海鳥沖合調査の際にも往路または復路で岩礁に接近しての調査を行ったが、これらは必ずしも干潮時ではない。
- ④**ケンボッキ島**： 琵琶瀬湾の沖に浮かぶ無人島で、1970 年代前半には少数の生息が確認されていたが、その後消滅状態が続いた。2014 年の調査で親子 3 組を含む 18 頭を確認し、上陸場復活の可能性が示唆された。本年度は 5～6 月にアゼチの岬ならびに琵琶瀬地区の陸上から望遠鏡を用いてカウントした（ただし、上陸場の一部しか見えないので個体数は過小評価）ほか、5 月 30 日に小型漁船で島へ接近してのカウントと写真撮影を行った。



図 1. 浜中湾周辺におけるゼニガタアザラシの上陸場.

### 3) 結果ならびに考察

①浜中湾北部： 5月23日に調査を行ったが上陸個体はオス成獣1頭のみ、2頭の遊泳個体を含め1歳以上3頭で新生仔は確認できなかった。調査日数が限られているため偶然に左右されている可能性は否定できないが、当上陸場における繁殖期の確認数はこの3年で

表1. 浜中湾北部における繁殖期(5~6月)のゼニガタアザラシ確認数.

年	2014	2015	2016
確認数	18(2)	6	3
* 確認数の()は新生仔			

確実に減少している(表1)。また、2015年以降は新生仔が確認されていない。上陸場の陸地側では牧草地造成事業が行われるなど人間活動による繁殖場放棄へ向かっている可能性もあり、今後の動向に注目

する必要がある。本種は近年、襟裳岬など特定の上陸場での個体数増加によりレッドリストの格下げ、駆除などがなされているが、厚岸付近の小規模上陸場でも本地点と同様に特に親子の個体数減少が知られており、保護管理に当たってはそれらも考慮する必要があると考える。特定上陸場への集中は局所的な漁業被害の増加、伝染病流行時の大量死リスクなどをもたらすからである。

ラッコ1頭が上陸場付近の海上から沖合のホカケ岩方向へ遊泳するのが観察された。

②初田牛： 5月23日に調査を行ったもののアザラシは確認されなかった。本事業において

表2. 初田牛における繁殖期(5~6月)のゼニガタアザラシ確認数.

年	2014	2015	2016
確認数	5	0	0
* 新生仔の確認はなし			

ては2014年5月に5頭(新生仔なし)観察されたのみ(表2)で、依然として繁殖場としては復活しておらず、季節的な一時滞留地と思われる。本上陸場や落石岬は秋

~早春にのみ利用され、浜中湾北部でも秋期ならびに春期に上陸数が最大(100頭以上)となり、モユルリ島など根室方面の上陸場との個体の移動が何頭も確認されている。同時期に浜中湾周辺に定着個体以外の回遊個体が来遊していることは明白であり、今後は同時期の個体数や個体識別調査を進める必要がある。

③ホカケ岩： 5月24日に小型船を用いての調査を行い、1歳以上約35頭、新生仔10頭前後を確認した。当日は風浪もあり、洋上からの正確な数の把握は困難であった。妊娠メ

表3. ホカケ岩における繁殖期(5~6月)のゼニガタアザラシ確認数.

年	2014	2015	2016
確認数	65(7)	46(5)	45±(10)
* 確認数の()は新生仔			

スと思われる個体も観察されたことから、実際の繁殖数はもう少し多いと思われる。この他に7月1日と26日の沖合調査の際にも岩礁に接近し、7月1日には37頭(1

歳獣の換毛が始まっているため、新生仔の数は不明)を確認した。2014~2016年の繁殖期における確認数と新生仔数を表3に示す。船で接近する短時間の調査のため数は年によって異なるが、5~10組の親子を含む50~60

頭が確認され、繁殖場として比較的安定していると考えられる。道内の上陸場で 10 組を超える親子が確認されているのは襟裳岬、大黒島、厚岸沿岸だけであり、ホカケ岩はそれらに並ぶ重要な繁殖場である。7 月以降に確認数が減少したのは、沖合調査に便乗してのため潮の干満や波の状態が必ずしも良好でなかったこと、周辺で盛んになるコンブ漁の影響で浜中湾北部等へ移動したことの両方によるものだろう。回数や条件の限られる船舶調査での個体群動態把握には困難があり、無人撮影装置等の開発が望まれる。また、陸上から望遠鏡を用いてある程度の観察はできるが距離や死角の問題があり、船上調査の際に陸上からも観察を行い、どの程度の誤差が生じているのか把握する必要もあろう。

7 月 1 日にはラッコ 2 頭が岩礁周辺の海上で観察された。道東太平洋沿岸では一度絶滅したが、南千島における個体数の回復にともなって 1990 年代以降、観察頻度が増加しており、近年では根室半島周辺で複数頭が通年観察されると同時に繁殖も確認されている。法律で捕獲が禁止されており、食性を考えると定置網や刺し網への混獲もそう多くないだろう。海洋環境の劇的な変化が生じない限り、個体数増加と分布域の拡大は今後も続くと思われ、浜中湾周辺でも今のうちからモニタリングしておく必要がある。

④ケンボッキ島： 本年度の調査結果を表 4 に示す。陸上からは 5 月 2 日～6 月 27 日に 2

表 4. 2016 年のケンボッキ島におけるゼニガタアザラシ確認数.

月	日	アゼチの岬から			琵琶瀬から			船		
		1歳以上	新生仔	計	1歳以上	新生仔	計	1歳以上	新生仔	計
5	2				23					
	18		11							
	21	7	1	8						
	22				4					
	29		3							
	30							20	3	23
6	2		2							
	3	15	1	16						
	4		14							
	5	15	1	16						
	6		9							
	7	7	1	8						
	8		5							
	12	11	1	12						
	14		10							
	25		13							
27		7								

～16 頭が観察され、多くの場合、新生仔は距離があって識別不可能だった。6 月 27 日以降、アザラシは観察されなくなった。船の調査では 5 月 30 日に 1 歳以上 20 頭、新生仔 3 頭確認された。表 5 に 2014～2016 年の繁殖期における最大確認数を示したが、例年 3～5 組の親子を含む 20 頭前後が利用しており、繁殖場として十分機能している

ことは明白である。ホカケ岩同様、実際の繁殖数はもう少し多いと考えられ、この状態が維持されるなら、浜中湾周辺ではホカケ岩に次いで重要な繁殖場である。厚岸以東の上陸場としてはこの数は決して少なくなく、繁殖場としての復活を公的に宣言し、保全や共存に向けた取り組みを展開する時期に来ているといえる。7 月以降にいなくなるのは周辺での



コンブ漁の影響や餌生物の分布とそれらへのアクセス等による季節的なものであろう。繁殖期に集中的に利用され、その後ほとんど利用されなくなる上陸場は厚岸地区やスコット

表5. ケンボッキ島における繁殖期(5~6月)のゼニガタアザラシ確認数.

年	2014	2015	2016
確認数	18(3)	25(5)	23(3)
* 確認数の()は新生仔			

ランドにおいても知られている。

当海域においてもラッコが最大2頭観察されている。



図2. ケンボッキ島におけるゼニガタアザラシ上陸場 (広域: 矢印)



図3. ケンボッキ島におけるゼニガタアザラシ上陸場 (詳細: 円内)

#### 4) まとめ

2016年5～7月に浜中湾周辺の4ヶ所でゼニガタアザラシをはじめとする海獣類の生息状況、特に繁殖状況を中心に陸上と海上から調査を行った。前年度以前と比較して劇的な変化は無かったが、2000年代前半までは数は少ないながらも少数の親子が定期的に利用していた浜中湾北部では、2015年に引き続き親子を確認できなかった。調査精度などの問題なのか、実際に繁殖場として放棄されつつあるのか、早急に現状を明らかにする必要がある。初田半ではアザラシは確認されず、1980年代初頭の崩壊以降、季節的に利用することはあっても繁殖場としては復活していないと考えられる。ホカケ岩では10組前後の親子が確認され、実際の繁殖数はもう少し多いことを考えると、浜中湾周辺ではもっとも安定した繁殖場である。2014年に30年以上ぶりに繁殖が確認されたケンボッキ島では3～5組の親子が安定して繁殖しており、繁殖に用いる上陸場として復活の途上にある可能性がある。正確な数は船上陸岩礁に接近しないとわからないが、概数はアゼチの岬から望遠鏡を使って把握可能なので、今後も大まかな傾向の把握と年数回の船舶調査が望まれる。また、繁殖場復活としての情報公表と今後の保全も必要である。

個体ごとに斑紋が異なるゼニガタアザラシの個体識別用写真を3年間でのべ400個体以上撮影したが、整理が追いついていない。整理には時間にくわえ、卓越した技術が必要なので、そのための予算を準備することも必要である。その上で関連する研究者や研究機関とも連携や情報の共有を行い、道東広域でのゼニガタアザラシの移動や個体群動態を考えてゆくことが本種の生物学の解明、ひいては人間との共存に役立つものと確信する。

上述のように浜中湾一帯には秋から早春にかけて来遊個体も加わり、いくつかの上陸場で上陸数が増加する。渡り鳥にとって繁殖地だけでなく、中継地や越冬地もまた重要であるのと同じように、広範囲を回遊する海獣類にとっては季節的に上陸する場所も含め、利用するすべてのエリアが保全の対象となる。今後は非繁殖期、特に換毛期（8月、秋期（9～11月）、早春期（3月）における分布や個体数の調査も必要である。

また、近年は複数頭のラッコが一年を通して沿岸で見られるようになってきた。今後も増加し、水産業との軋轢も予想されるため、個体数や分布、採餌生態などのモニタリングを早いうちから始めておく必要がある。

海獣類の生息地は沖合であったり、陸地でも辺鄙な場所であったりし、日による出現状況の変化も大きいので今後ドローン、無人撮影装置などによる調査精度向上の検討も課題といえる。

また、海獣類がまだ豊かで猟などを通じて接していた人間の高齢化が進んでおり、聞き取り調査などで過去の生息状況や生態の把握もできるだけ早いうちに行っておく必要があろう。

写真 (その1)



写真1 浜中湾北部遠景(5/23)



写真2 浜中湾北部のゼニガタアザラシ成獣(5/23)



写真3 浜中湾北部のラッコ(5/23)



写真4 初田牛遠景(5/23)



写真5 初田牛での調査風景(5/23)



写真6 ホカケ岩遠景(5/24)



写真7 ホカケ岩のゼニガタアザラシ(5/24)



写真8 ホカケ岩のゼニガタアザラシ親子(5/24)



写真 (その2)



写真9 ホカケ岩のゼニガタアザラシ親子(5/24)



写真10 ホカケ岩のゼニガタアザラシ親子(5/24)



写真11 アゼチの岬からのケンボッキ島(6/3)



写真12 琵琶瀬からのケンボッキ島(4/19)



写真13 ケンボッキ島のゼニガタアザラシ親子(5/30)



写真14 ケンボッキ島のゼニガタアザラシ(5/30)

